

◇◇ 近畿病院図書室協議会 ◇◇

第20回 総会 報告

近畿病院図書室協議会第20回総会は、1994年3月25日（金）午後2時15分より、淀川キリスト教病院本館5階講義室で開催された。当日の出席は31機関、委任状提出機関は35機関であった。

白方誠彌会長の挨拶のあと、議長に中嶋和子（西宮市立中央病院）、副議長に浦谷圭子（大阪通信病院）、書記に浜口恵子（高槻赤十字病院）の各氏を選出し議案審議に移った。提出議案は7題でそれぞれ満場一致で可決された。

会長、事務局長は役員会で選出された現白方誠彌会長、現小田中徹也事務局長がそれぞれ承認された。役員改選では幹事10名、会計監査2名が選出された。

総会に先だって特別講演「医療と医療訴訟」（東幸生氏 弁護士・大阪医療問題研究会）が行われた。

議案日程

- 議案Ⅰ 平成5年度活動報告
- 議案Ⅱ 平成5年度会計報告・監査報告
- 議案Ⅲ 平成6年度活動方針
- 議案Ⅳ 平成6年度事業計画
- 議案Ⅴ 平成6年度予算
- 議案Ⅵ 役員改選
- 小 憩 -
- 議案Ⅶ 会長・事務局長承認

議案Ⅰ 平成5年度活動報告

はじめに

今年度は4月からの製薬業界の営業活動の自粛が病院図書室にも大きな影響をおよぼしたことがまず挙げられる。会員各図書室では特に文献の相互貸借が激増し、また文献検索のためのCD-ROM版データベースの導入も顕著となった。さらに、スライド作成のためのパソコンの新たな設置なども多く見られる。

この状況は病院において医学情報活動を担う図書室の役割があらためて再認識されたとも考えられるが、担当者の新たな配置や補充などには反映されず、業務量の急増だけが目立っている。このことは担当者の協議会活動への事業協力にも大きな影響をおよぼし、年来の課題を解決するまでには至れず、また継続事業の遂行にも大きな負担をもたらした。

他方、当協議会に対する外部からの期待は

大きく、今年度は新たに20機関が入会し、現在も問合わせのあった数機関からの入会も予想されている。その多くは文献入手を主な目的としていることが窺われる。地域的には特に兵庫県と東海地区からの入会が目立ち、また、範囲は青森県から鹿児島県までの広がり示している。したがって、現在の総会員数96機関のうち近畿地区外の会員は約3分の1近い29機関を占めている。

文献の相互利用と新入会員の急増にたいし、当協議会では各事業の中にそれらをテーマとした企画をたてて対応した。勉強会や各研修会のプログラム、また、会誌の『病院図書室』でも「相互利用」を特集記事に取り上げて会員の啓蒙に努めた。さらに、現行雑誌所在目録の作成や全国の大学医学図書館へのFAX文献申込みについてのアンケートもその一環であり、各会員には有用なものと思われる。

ところで、昨年からの懸案となっていた会の名称については今年十分な取組みができなかった。この問題は、日本医学図書館協会の組織や制度を改革していこうとする動きなど会外の状況が流動的でもあり、担当者だけではなく会員の病院管理者も含めて考えていくべき課題と思われる。

また、懸案の医学雑誌の総合目録の改定については、漸次作業を進めているが残念ながら年度内の発行には至らなかった。編集過程の中で幾つかの困難もあったが、会員各位の理解と協力を得て早急に完成させたい。

現在、協議会活動に携る役員や事業協力者は各図書室業務量の増加もあり負担は大きくなっている。協議会事業の維持と発展には今後、新たな会員からの事業への積極的な参加が待たれる。また、作業の外注などによる負担軽減も考えていきたい。

I - 1 各事業部報告

I - 1 - 1. 研修部

[第3回勉強会]

日時：1993年5月26日（水） 13:00～17:00

場所：淀川キリスト教病院 オリーブ棟3階
会議室

会費：500円

内容：相互貸借業務について

プログラム

1. 概論 講師 首藤佳子
(星ヶ丘厚生年金病院)
2. 基本編 講師 徳田雅子
(大阪府立母子保健総合医療センター)
3. 応用編 講師 山室真知子
(京都南病院)
4. 受付側から 講師 松本純子
(住友病院)
5. 実習 講師 林 伴子
(社会保険神戸中央病院)

参加者：27名（うち非会員4名）

[第68回研修会]

日時：1993年7月2日（金） 10:00～16:15

場所：西宮市立中央病院 3階講義室

会費：会員 1,000円

非会員 1,500円

プログラム

1. 相互貸借業務について
 - ①近畿地区医学図書館へのファックス
申込方法と近病図協会員への研修部
アンケート報告
報告 研修部
 - ②MRの文献提供の自粛による影響と
病院図書室
司会 小田中徹也（国立京都病院）
 - ③相互貸借の手続きについて
－質疑応答－
2. 丸善MACS2外国雑誌一括発注システム
について
講師 古田健一
(丸善外国雑誌センター営業促進課)
3. [医学の基礎知識] MRSAについて
講師 西尾 晃
(社会保険神戸中央病院内科部長)

参加者：41名（うち非会員11名）

[第5回名古屋研修会]

日時：1993年10月30日(土) 10:00~16:00

場所：名古屋第二赤十字病院

加藤化学記念カンファレンスホール

会費：会 員 1,000円

非会員 2,000円

プログラム

1. 事例報告

①文献の相互利用業務を始めて3年
安江聖子(国立名古屋病院)

②文献の相互利用業務に追われる毎日
の中で

伊佐治裕子(名古屋記念病院)

2. 東海地区医学図書館と文献複写サービス
に関するアンケート調査報告

報告 大橋真紀子

(社会保険中京病院)

3. 国立大学医学図書館と病院図書室にお
ける相互利用の現状

講師 新堂富生

(三重大学医学図書館図書係長)

講師 森 一雄

(岐阜大学付属図書館図書館専門員
兼医学部分館図書係長)

4. フリーディスカッション

参加者：27名(うち非会員11名)

[第69回研修会]

日時：1993年12月8日(水) 10:00~16:00

場所：淀川キリスト教病院 本館チャペル

会費：会 員 1,000円

非会員 1,500円

プログラム

1. 医学図書館へのファックスの文献申込
方法

報告 研修部

2. 近畿病院図書室協議会「現行雑誌所在
目録」の編集作業について

報告 「現行」編集委員 徳田雅子
(大阪府立母子保健総合医療センター)

3. 日本語医学文献の探し方

講師 首藤佳子

(星ヶ丘厚生年金病院)

4. 医学中央雑誌CD-ROM検索方法
—講義と実習—

講師 斎藤元弘

(医学中央雑誌刊行会電子出版課)

参加者：47名(うち非会員7名)

[第70回研修会]

日時：1994年3月25日(金) 10:00~12:00

場所：淀川キリスト教病院

会費：500円

プログラム(事例・研究報告会)

1. 徳洲会病院内での相互貸借業務

大久保 緑(宇治徳洲会病院)

2. 入会1年生の1年間を振り返って

寺澤裕子(関西労災病院)

3. 看護図書館協議会の紹介

林 志穂

(日本赤十字愛知女子短期大学図書館)

4. JMLA加盟館に対してFAXにお
ける「文献複写依頼」アンケート調査を
実施して

報告 前田元也(西淀病院)

会誌編集部一同

5. CD-ROM文献検索の利用者記録

小田中徹也(国立京都病院)

座長 大橋真紀子(社会保険中京病院)

参加者：29名(うち非会員0名)

今年度は研修会3回と名古屋研修会、勉強
会を企画し開催した。

新入会員、新任担当者向けの勉強会は例年
通り少人数を想定して「相互貸借」実務の基
礎講座を企画したが、予想を上回り通常研修
会に匹敵する参加者数を得た。

第68回研修会は、外国雑誌の発注の参考に
なるようにと、昨年の紀伊屋書店に引き続
き今年は丸善のものを紹介した。[医学の基
礎知識]では、MRSAの最近の話題を知る
ことができた。

第5回名古屋研修会は、名古屋地区の会員
で組織した実行委員によって企画運営された。

病院図書室からは相互貸借業務の現状報告がなされ、国立大学医学図書館の講師から助言を得た。

第69回研修会は、日本語医学文献検索を取り上げた。参加者数が多く急速、会場を変更した。初心者向け講義の中に検索事例を盛り込み、医学中央雑誌CD-ROM検索の問題点を考え、つづく「医学中央雑誌CD-ROM」の講義の中でその問題解決の糸口を模索した。

第70回研修会(事例・研究報告会)は、6題の発表があった。

<まとめ>

人員不足により研修部員ひとりひとりの負担が増えた。図書室内外の業務に忙殺されながらも毎月1回研修部会議をもち、年間スケジュールに基づき、会員へのアンケート調査を実施し研修会企画を進めた。当初予定していた秋の勉強会は開催できなかったが、この研修部会議の中で「現行雑誌所在目録」編集企画が生まれ実現できたことは大変よかった。

特筆すべき点は、例年10名前後の参加をもって開催されてきた基礎実務講座の勉強会に通常の研修会程度の参加者があったことで、これは明らかに4月からの「MRの情報提供自粛」の影響と思われる。今年度は企画内容もこの1点に終始した感があり、その後の研修会には必ず「MRの情報提供自粛」対策ともいえる企画を立て、会員もそれを望んで意欲的に参加している。非会員で研修会に参加した機関がそののち協議会に入会されたのが、今年の特徴だった。

今年度は研修部員として、昨年に引続き社会保険神戸中央病院の林伴子氏の協力を得た。

次年度は、春の勉強会に実務基礎講座、通常研修会にはその時のテーマに即した事例報告を必ず入れることとし、年度末の事例・研究報告会の形式はやめ実務講座を実施することを検討したい。急激に増加した新入会会員への研修体制をとるために研修部員を増員したい。

I-1-2. 編集部

今年度は13巻1号～4号を発行し、現在14巻1号を印刷中である。機関誌の発行形態を一新してから2年が経過したが、編集方針は初年度を引き継いで特に新しいものは取り入れなかった。まずは変更後の新機関誌の定着に力を注いだということである。

今年度を総括すれば、主な点は以下のとおりである。1. 会員数や購読会員数の増加に伴って発行部数を13巻3号より300部に増やしたこと。2. 昨年は諸般の事情により各図書室の日常業務量が増え、編集体制を見直す必要が生じたこと。3. 1号あたりの頁数が当初の予定をかなり上回ったこと。4. 購読会員の募集をしたこと、等である。

病院図書室の現状では担当者による定期刊行物の発行はかなり負担になるが、今しばらくは現在の形で発行を続けていきたい。

1. 各号の発行日、頁数、発行部数、主な記事

13巻1号(1993/3/18発行) 44p 200部
特集：患者への図書サービスほか。

13巻2号(1993/6/25発行) 35p 200部
協議会第19回総会報告ほか。

13巻3号(1993/10/14発行) 50p 300部
特集：外国雑誌の流通と購入方式ほか。

13巻4号(1993/12/28発行) 42p 300部
NACSISの基礎知識等、寄稿やシリーズ記事ほか。

*発行日の遅れはもっとも大きい時で約1カ月半。また、平均頁数は42pで予定の30pを超過した。

2. 発行経費

13巻1号～4号の印刷費、郵送費、著者への謝礼等を併せて発行に要した費用は1,114,320円であった。これは予算1,050,000円に対し、64,320円の赤字である。これは年度途中より発行部数を増やしたことによって13巻3、4号が1号あたり約2～3万円程度の加

算となったことがもっとも大きい。その他、各号の頁数が予定を超えたことである。

3. 広告収入

年間契約：厚生社 (20,000円)
 暁工房 (20,000円)
 ナカバヤシ (40,000円)

単 発：丸善 (25,000円)
 ユサコ (12,000円)
 学研 (5,000円)

計 122,000円

4. 編集体制

今年度は従来どおりの6人のスタッフで各業務ごとの分担制で編集を行ったが、先にも述べたとおり各担当者の日常業務量がたいへん増加しており、スタッフを増やして各号分担制にすることを検討している。また、出稿をフロッピーで行うなどレイアウトや校正の省力化を検討することになった。

編集会議は今年度2回、開催日等は以下のとおり。

第1回 (1993/6/23) 淀川キリスト教病院
 第2回 (1993/11/10) 同上

5. 今後の課題

昨年度に引き続いて編集体制の強化、定期刊行のためのスケジュールの見直しが最重要課題である。また、新会員の増加に伴って記事内容の再検討が必要である。

I-1-3. 統計調査部

1. 重複雑誌目録の発行

- a. 対象期間：1992年(1-12月)発行の和・洋雑誌で各図書室が重複して受け入れたもの
- b. 作業経過：1993.6.21 調査用紙発送 (会員84施設)
- 1993.7.21 回答締切
- 1993.8. 集計・印刷

1993.9.1 目録発送
 (会員90施設)

- c. 参加施設：28施設 (参加率33%)
- d. 重複雑誌タイトル：
 188誌 (和雑誌73・洋雑誌115)
- e. 印刷費：1000円
- 例年、重複雑誌調査に参加する施設が少ないようである。次年度は製本時期が遅い施設のために調査時期を遅らせて、より多くの施設からデータを提出して頂けることを期待する。

2. 図書室統計調査報告書の発行

- a. 対象期間：1992年4月～1993年3月での図書室状況
- b. 調査項目：施設の現況/施設・建物/職員/図書委員会/蔵書/経費/整理業務/利用者サービス/視聴覚資料・所有機器/図書室出版物/所蔵二次資料
- c. 作業経過：1993.9.10 調査用紙を発送 (会員90施設)
- 1993.10.12 回答締切
- 1993.11.1 未提出施設へ督促
- 1993.12 集計・印刷
- 1994.2.10 幹事会で集計方法の一部変更を検討
- 1994.2.15 報告書の発送 (会員96施設および地域病院図書室ネットワーク8機関)
- d. 参加施設：72施設 (参加率80%)
- e. 印刷費：9800円
- 図書室の概要を、担当者以外の人にも把握しやすいよう報告書の形式を一部変更した。今年度からは製薬会社の文献サービスが自粛となったので、図書室へのその影響について早く報告したく、次年度の調査は早めを実施したいと思う。

3. 文献の相互貸借

1992.4～1993.3における当協議会全体の件数

受 付

協議会加盟施設	2 5 7 8 件 (8 3 %)
協議会加盟以外	3 7 2 件 (1 2 %)
上記区別なし	1 6 0 件 (5 %)
合 計	3 1 1 0 件

(内、現物貸1件)

依 頼

協議会加盟施設	3 1 6 5 件 (3 3 %)
J M L A 加盟館	3 9 9 4 件 (4 2 %)
海外 (BLDSCなど)	9 件 (0 %)
そ の 他	2 3 3 3 件 (2 4 %)
上記区別なし	6 1 件 (1 %)
合 計	9 5 6 2 件

(内、現物貸9件)

* 平成4年度の数字であることにご留意ください。

I - 2 組織活動について

I - 2 - 1. 幹事会

今年は幹事9名のうち2名が年度途中から
休暇などにより会の運営や事業活動に就けな
かったため、残りの幹事で分担して事業を消

化した。したがって、継続事業の維持が主な
協議題となった。

① 4/21:星ヶ丘厚生年金病院 (幹事の担当
事業決定、各事業部年間計画、FAX文
献申込みのアンケート、会誌『病院図書
室』の販路拡大)

② 5/10:国立京都病院 (各事業の経過報告
と協議、医学雑誌の現行所在目録の作成)

- ③ 8/26: 淀川キリスト教病院（各事業の経過報告と協議、東海地区の実務研修病院に社会保険中京病院に依頼）
- ④ 10/21: 大阪府立母子保健総合医療センター（各事業の経過報告と協議、FAX基準料金の改定、休職幹事の担当分担）
- ⑤ 12/16: 国立京都病院（各事業の経過報告と協議、FAX文献申込みの全国的アンケート、会費滞納会員の扱い）
- ⑥ 2/10: 京都南病院（年間総括、役員会、総会の準備）

I-2-2. 役員会

平成6年2月21日、淀川キリスト教病院において開催された。事務局、各事業部から今年度の活動報告があり、また来年度の活動方針や事業計画について討議された。報告では、特に昨年4月からの製薬業界の営業活動自粛が各図書室や協議会に与えた影響について強調された。

来年度の事業計画では、当協議会の創立20周年の記念事業を挙げることにになり、記念の行事や発行物を実行委員会を設置して企画し事業化することにした。

平成6年度の会長には白方誠彌現会長（淀川キリスト教病院院長）が、事務局長には小田中徹也現事務局長（国立京都病院図書室司書）が会則に基づき選出され、総会での承認を受けることになった。

I-2-3. 会員の状況

会員数：96機関（近畿外；29機関、病院外；7機関）

異動：入会；20機関

（内訳）国立名古屋病院、健康保健東濃病院、市立岸和田市民病院、岐阜赤十字病院、関西労災病院、公立学校共済組合近畿中央病院、神戸徳洲会病院、埼玉医療生活協同組合羽生病院、千葉西病院、神戸労災

病院、健生病院、兵庫県立尼崎病院、市立舞鶴市民病院、名古屋記念病院、神戸市立中央市民病院、大隅鹿屋病院、明石市立市民病院、市立砺波総合病院、姫路聖マリア病院、兵庫県立姫路循環器病センター

退会；なし

I-2-4. 対外交流

- (1) JMLA及び近畿地区医学図書館協議会
第56回地区例会（H5/5/14 奈良県立医科大学）に幹事の加島民子氏と松本純子氏出席。
第57回地区例会（H5/10/6 和歌山医科大学）に小田中徹也（事務局）と伊藤りつ子氏（和歌山労災病院）が出席。第58回地区例会（H6/1/27 天理よろづ相談所病院）に小田中徹也（事務局）が出席。JMLA第64回総会（5/20-21 川崎医療福祉大学）に幹事の山室真知子氏、前田元也氏、林伴子氏が出席。

この他にも例年どおり出版物の協会会員価格での頒布案内や各種研修会の案内があった。また、名古屋研修会では例年通り当地区の医学図書館から講師として協力を受けた。なお、JMLAでは組織を再編すべく会則改定の動きがあり、入会基準の撤廃や個人会員制の導入も検討されている。来年度にこれらが具体化するかどうか注目される。

- (2) 日本病院会

今年度の全国図書室研究会（8/5-6 静岡）の開催については後援名義使用に協力した。また、これまで隔年に関西地区での開催に協力してきた当研究会の来年度以降の開催については未定である。

- (3) その他

病院図書室研究会（関東中心）や県単位の病院図書室ネットワークとは今年度も出版物の交換などの交流を行った。その他、関連学会での会員の発表や雑誌への投稿があった。

（学会・論文発表参照）

I-2-5. 学会活動

[学会発表]

- (1) 第10回医学情報サービス研究大会(6月、東京)
患者サービスとMRSA院内感染
京都南病院 山室真知子
高山赤十字病院 木下久美子
- (2) 第10回医学情報サービス研究大会(6月、東京)
シンポジウム「医学情報サービスの課題と将来」病院図書室ネットワークの課題
星ヶ丘厚生年金病院 首藤佳子

[論文執筆]

- (1) 小田中徹也(国立京都病院)
MRの文献情報サービス自粛の影響
[Q&A欄]
医学図書館 40(3):342, 1993
- (2) 首藤佳子(星ヶ丘厚生年金病院)
病院図書室ネットワークの課題
医学図書館 40(4):377-381, 1993
- (3) 小田中徹也(国立京都病院)
近畿病院図書室協議会紹介 図書館年鑑 1993年度版 日本図書館協会
- (4) 山室真知子(京都南病院)
患者図書サービスとMRSA院内感染
ほすびたる・らいぶらりあん 18(3):70, 1993
- (5) 小猿友子(耳原総合病院)
結核とミルク
ほすびたる・らいぶらりあん 18(3):65, 1993
- (6) 松田智恵子(大阪府済生会泉尾病院)
病院図書室をみなおしてほしい
済生 (No.772):22-24, 1993

I-3-1. BLDDセンター

(1993.2.21~1994.2.15.)

1. クーポンの出納

前年度繰越クーポン	42枚
今年度購入クーポン	20枚
今年度払出クーポン	-19枚

クーポン残り枚数 43枚

2. 現金の出納

前年度繰越金	28,340円
今年度クーポン利用料	31,500円
クーポン購入費	-29,400円

残 高 30,440円

*クーポン購入は1993年8月27日、丸善より。

3. センターの利用状況

(1)利用件数 25件(うち謝絶9件)

(2)利用した施設 10病院

(内訳:高山赤十字、小牧市民、京都市立、京都南、国立大阪、大阪府立成人病、淀川キリスト教、高槻赤十字、大阪府立母子保健、松山赤十字)

4. 今年度は例年に増して利用が多かった。BLDSCセンターの逐次刊行物所蔵目録は発注済みであるがまだ納品されていない。

I-3-2. 規格用紙サービスセンター

(1) 規格用紙の利用状況

I-3 会員委託サービスセンター

別掲の通り

(1) 規格用紙の利用状況

規格用紙の種類	利用枚数	機関数	売上金額
相互貸借往復ハガキ（ネーム入）	4,500	8	69,525
相互貸借往復ハガキ（ネームなし）	970	8	13,987
逐次刊行物受入カード（A様式）	1,150	8	16,583
逐次刊行物受入カード（B様式）	700	4	10,094
合 計	7,320	28	110,189

*売上金額には消費税を含む

(2) 規格用紙の受払状況

規格用紙の種類	繰越枚数	作成枚数	売上枚数	残 部
相互貸借往復ハガキ（ネーム入）	0	4,500	4,500	0
相互貸借往復ハガキ（ネームなし）	150	1,000	970	180
逐次刊行物受入カード（A様式）	250	1,000	1,150	100
逐次刊行物受入カード（B様式）	100	1,000	700	400

(3) 規格用紙関係 現金の出納

収 入	金 額	支 出	金 額
前年度 繰越金	10,275	ハガキ・カード作成費 (@15.00 × 7500)	112,500
今年度 売上金	110,189	消費税	3,375
		送 料	6,160
		包装 BOX	880
合 計	120,464	合 計	122,915

来年度繰越金 -2,451円

注) 今年度より印刷代値上げにより単価16円となり、小包料金の改定により500枚以上の場合も送料を負担していただくこととなります。

議案Ⅱ 平成5年度近畿病院図書室協議会会計報告・監査報告

(収入の部)

単位：円

費 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
前年度繰越金	<u>506,700</u>	<u>506,700</u>	
会 費	<u>1,795,000</u>	<u>2,090,000</u>	H5 87会員 1,740,000 H4 7会員 105,000 H3 3会員 45,000 H2 2会員 30,000 入会金 170,000 (17 会員)
事業収入	<u>1,085,000</u>	<u>442,500</u>	
会誌購読会費	(210,000)	(271,500)	10,000× 2 7,000× 1 6,000× 40 4,500× 1
雑誌総合目録	(770,000)	(0)	
研修会費	(105,000)	(160,500)	第67・68・69回研修会 第3回勉強会 名古屋研修会
その他	—	(10,500)	会誌売上
その他	—	<u>127,816</u>	銀行利息 1,728 会誌広告料 122,000 抜き刷り代 4,088
合 計	<u>3,386,700</u>	<u>3,167,016</u>	

(支出の部)

単位：円

費 目	予算額	決算額	差引増△減	摘 要
総会費	<u>70,000</u>	<u>72,335</u>	<u>△ 2,335</u>	選挙・議案書費用 特別講演謝礼, 交通費
事務費	<u>50,000</u>	<u>66,009</u>	<u>△ 16,009</u>	振込料、封筒印刷、ゴム 印、アドレスラベル、年 賀状、他
通信費	<u>70,000</u>	<u>77,257</u>	<u>△ 7,257</u>	事務局、各部会連絡、会 員宛通信費、入会案内、 他
交通費	<u>250,000</u>	<u>248,740</u>	<u>1,260</u>	幹事会、役員会、各部会、 JMLA例会、JMLA総会
事業費	<u>2,390,000</u>	<u>1,363,007</u>	<u>1,026,993</u>	
会誌発行費	(1,050,000)	(1,114,320)	(△64,320)	会誌13巻(1, 2, 3, 4) 印刷費、発送料、図書 券、他
研修会費	(240,000)	(163,692)	(76,308)	第67・68・69回研修会 第3回勉強会 名古屋研修会
総合目録改定版	(800,000)	(0)	(800,000)	
その他の事業	(300,000)	(84,995)	(215,005)	重複雑誌目録 年次統計調査 現行雑誌所在目録
資料費	<u>100,000</u>	<u>66,499</u>	<u>33,501</u>	学術雑誌総合目録 (和文編)
雑 費	<u>456,700</u>	<u>81,455</u>	<u>375,245</u>	JMLA総会参加費他
合 計	<u>3,386,700</u>	<u>1,975,302</u>	<u>1,411,398</u>	

平成5年度 会計監査

単位：円

収 入	金 額	支 出	金 額
前年度繰越金	506,700	総会費	72,335
会 費	2,090,000	事務費	66,009
事業収入	442,500	通信費	77,257
会誌購読会費	(271,500)	交通費	248,740
雑誌総合目録	(0)	事業費	1,363,007
研修会費	(160,500)	会誌発行費	(1,114,320)
その他	(10,500)	研修会費	(163,692)
その他	127,816	総合目録改定版	(0)
		その他の事業	(84,995)
		資料費	66,499
		雑 費	81,455
		翌年繰越金	1,191,714
合 計	3,167,016	合 計	3,167,016

上記決算については、会計監査を終了しました。

平成6年3月11日

会計監査 重富 久代 ㊟
田中 泉美 ㊟

議案Ⅲ 平成6年度活動方針

1974年秋に機関加盟の団体として当協議会が成立してから今年で20年になる。近畿地区の22の病院から出発した当協議会はこの間、近畿地区外からまた医療関連教育施設からも

加入があり来年度には100会員を越すことが予想される。

病院図書室は医療の中で多くの困難な問題をかかえてはいるが、徐々にその役割を認識され期待もされている。当協議会は多様な図書室が会員となっているが、これまでの実績を生かし今後さらに多くの病院図書室の相互

協力の場になっていくよう努めていきたい。

そうした意味からも来年度は設立20周年を記念する事業を企画し、これからの当協議会のありかたや、病院図書室の新たな役割を探る端緒としたい。具体的には、記念事業の実行委員会を組織し、そこで記念的研修会の開催や会誌『病院図書室』の記念号の発行などの事業化の検討、また、昨年来の懸案となっている会名称の検討や、『総合目録』改訂版の完成などが考えられる。

継続事業では、研修会や勉強会の開催、会誌の発行、年次統計調査をはじめ、今年度からはじめた会員の所蔵する医学雑誌の現行所在目録を来年度も発行する。特に、今年度入会の多かった兵庫地区や東海地区での勉強会は早々に実現したい事業である。

なお、これらの協議会事業は幹事をはじめ一般会員からも多数の協力者を得て実現することができた。しかし、この中には永年携ってきた会員担当者もあり、徐々に協議会活動の運営を交替して運営体制を刷新することも考えていかなければならない。そのため、会員からの新たな事業参加が特に期待される。

対外交流では、日本医学図書館協会（JMLA）の動きが最も注目され、入会基準の撤廃や個人会員制の導入などの改革が病院図書室に好結果をもたらすことが期待される。また、全国各地の病院図書室ネットワークとも従来どおりの交流をもち、さらに協力を深めていく道を探っていきたい。

議案Ⅳ 平成6年度事業計画

1. 医学文献情報活動の推進
「医学雑誌総合目録」改訂版の発行と資料分担保存の実現、現行所在目録の発行
2. 教育研修活動の継続
定例・名古屋研修会、勉強会の開催、諸研究研修会への案内と参加奨励
3. 出版広報活動の継続

会誌『病院図書室』の季刊発行

4. 年次統計等の調査活動
年次統計と相互貸借の調査、重複雑誌目録の作成
5. 研究活動の継続
研究や事例発表への助成金制度
6. 協力活動の地域的拡大
名古屋研修会と勉強会、兵庫県での勉強会の開催
7. 設立20周年記念事業の企画と実行
実行委員会での企画と各事業での実行

議案Ⅴ 平成6年度予算

別掲の通り

議案Ⅵ 役員改選

選挙管理委員により平成6年度役員改選が行われ、幹事10名と会計監査2名が選出された。新役員は以下のとおりである。

◎幹事

- 木下久美子（高山赤十字病院）
首藤 佳子（星ヶ丘厚生年金病院）
田中 文子（済生会兵庫県病院）
徳田 雅子（大阪府立母子保健総合医療センター）
林 伴子（社会保険神戸中央病院）
前田 元也（西淀病院）
松本 純子（住友病院）
村雲 明美（大阪府赤十字血液センター）
山室真知子（京都南病院）
山崎 捷子（淀川キリスト教病院）

◎会計監査

- 伊藤りつ子（和歌山労災病院）
内之丸知江美（大阪府立成人病センター）

平成6年度 予 算

(収入の部)

(支出の部)

単位：円

費 目	金 額
前年度繰越金	1,191,714
会 費	2,170,000
平成6年度	@20,000×96
平成5年度未納	@20,000×9
平成4年度未納	@15,000×1
平成3年度未納	@15,000×1
入会金未納 H5	@10,000×4
事業収入	1,188,500
会誌購読会費	(276,000)
平成6年度	@6,000×45
平成5年度未納	@6,000×1
雑誌総合目録	(770,000)
研修会費	(142,500)
定例研修会	@1,000×35×2
基礎実務講座	@500×35
名古屋研修会	@1,000×40
勉強会	@1,000×15
その他	
その 他	
合 計	4,550,214

費 目	金 額	摘 要
総 会 費	85,000	選挙費用, 議案書費用, 特別講演謝礼, 交通費
事 務 費	90,000	振込料, 封筒印刷, 年賀状印刷, 他
通 信 費	120,000	事務局・各部会連絡 会員通知用
交 通 費	300,000	役員会, 幹事会, 各部会, JMLA近畿地区 例会, 他
事 業 費	3,040,000	
会誌発行費	(1,200,000)	会誌「病院図書室」 14巻1-4号印刷, 送料, 執筆料
研修会費	(240,000)	定例研修会2回, 事例報告会, 名古屋 研修会, 勉強会
総合目録	(800,000)	雑誌総合目録改訂版 (国内・外国編)
その他の事業	(300,000)	年次統計報告H5年 重複雑誌目録H6年
20周年 記念事業費	(500,000)	
資 料 費	150,000	医学洋書総合目録 BLDSC 逐次刊行物 所蔵目録
雑 費	765,214	慶弔費, 接遇費, 他
合 計	4,550,214	

議案Ⅶ 会長・事務局長承認

長)、事務局長には小田中徹也氏(国立京都病院司書)がそれぞれ承認された。

会長は白方誠彌氏(淀川キリスト教病院院

以上をもって第20回総会を閉会した。

《新入会員紹介》

松山市民病院

〒790 愛媛県松山市大手町2-6-5
TEL. 0899-43-1151 FAX. 0899-47-0026
院長：宮田信熙 担当者：高須賀京子(専)
新野陽子(兼)

三菱京都病院

〒615 京都市西京区桂御所町1
TEL. 075-381-2111 FAX. 075-392-7952
院長：村井真二 担当者：須井麻由美(専)

公立八鹿病院

〒667 兵庫県養父郡八鹿町八鹿1878-1
TEL. 0796-62-3135 FAX. 0796-62-3134
院長：谷 尚 担当者：守本智子(兼)
小山 葉(兼)

《会 員 異 動》

大阪府立成人病センター

担当者 足立ひとみ }
内之丸知江美 } →川内一子